

かたりべ

11

豊島区立郷土資料館だより



たった一本の牛乳ビン

高さ15センチのこの奇妙な形のビンは、巢鴨・山口牧場で使われていた牛乳ビンです。

明治40年代から昭和初期にかけて、区内には、のべ40カ所近くの牧場がありました。とくに、巢鴨地域には牧場が集中し、このビンを資料館に寄贈して下さった藤ヶ谷政明さんの言葉をお借りすれば、まさに、「牧場団地」とも言うべき光景が広がっていたのです。

この牛乳ビンは5勺(90cc)ビンで、現在使われているものにくらべると大変小さく、牛乳も今とは違い、「薬」のような感覚で飲まれていたようです。

区内の牧場は、北海道のような大規模なものではなく、中・小規模、どちらかと言えば10頭から30頭程度の牛を飼う小さなものがほとんどでした。今や副都心として大発展をとげている豊島区と失われてしまったのどかな牧場風景。区内に残された、たった一本の牛乳ビンが現在のわたしたちに語りかけるものは決して小さいものではないのです。

◎千川上水が暗渠になったこと、桜並木のことなど、桐本さんの写真が思い出させてくれました。
(豊島区 74女)

◎牧場が、このように沢山あったのを初めて知り勉強になった。郷土の歴史を知ることが大切です。時宜を得た企画でした。(練馬区 69男)

◎少年時代を池袋ですごしたので、非常に懐かしく、感動しました。その頃の空気の良い静かな文化の町池袋に、少しでも戻ってほしいと思います。
(八千代市 62男)

◎常に意欲あるテーマを取り上げ、感激しています。今後は独立した建物をつくり展示活動を充実させて頂きたいと思います。(高田 59女)

◎大変興味深く見学しました。都市においてこのような企画を見ることは誠にめずらしく思います。
(北海道札幌市 56男)

◎現在の豊島区は家でいっぱい。失われた耕地は、二度と再現できない。今回の特別展は、記録的にも豊島区の財産である。(調布市 55男)

◎戦前の「むら」から「まち」への発展過程が興味をそそり、館の熱心な努力に感謝いたします。
(市川市 54男)

◎コンクリートジャングル化する東京で、緑を守る耕地が、今ほど必要とされている時はないだろう。
(新宿区 41男)

◎子供を連れてきて見せたいと思いました。私にとっては、子供の頃の思い出につながるもの

ばかりでした。
(西池袋 40女)

◎郷土の歴史・産業の移り変わりを知るにはよいテーマであり、土地問題がクローズアップされるなかにありタイムリーな企画です。水と緑の歴史を踏まえた新しい町づくりを目指すには、我々市民は、都市農地の存在をどう受け止められ



子どもたちもたくさん来てくれました

ばよいのか。
(川崎市 37男)

◎これからの都市(まち)づくりについて考えようとしていることで、他の住民にとっても興味ぶかいものになっている。(千葉市 34女)

◎今は道路名としてしか私達になじみのない千川上水の様子がよくわかる。今後このような展示を企画していただきたい。(練馬区 30男)

◎単なる「農具展」ではないところに感心しました。
(我孫子市 29男)

◎「豊島区の農業」という、今では全くの死語となってしまうテーマを、かなり表現できており興味を持った。
(練馬区 27男)

◎「牛乳びん」や「はんでん」、「ネギ畑」の写真などの展示から清涼感を感じました。展示のタイトル、ポスターが、また良いと思いました。
(千川町 22女)

◎わかりやすく農具が展示されていて興味をひいた。都市に耕地が無くなるのも当たり前かもしれないが、町が次第に味気なくなるように感じる。
(西巢鴨町 20女)

◎知らなかった豊島区の昔を知ることができてよかった。資料も見やすく、分かりやすかったです。
(目白 15男)

◎むかし、東京に牧場があったなんて信じられない。
(志木市 11男)

◎昔は豊島区でも野菜が作れたとは知らなかった。
(千早町 11男)

一月二三日、特別展開座談会『豊島の農業を語る』が開催されました。講師に中村たかを氏、田島徳三郎氏、藤ヶ谷政明氏の三氏を迎え、五〇人を超える方々が参加しました。会場からも熱心な発言・質問が相次ぎ、興味深いお話に時間が足りず大変残念でした。



大われた「豊島の農業」が語られました

- ◎大変興味ある話でした。長崎村の千大根は、忘れがちですが、もっと強調する必要があると思います。米作から農業の廃止の境の植木作りはなかなか盛んで、今でも古い地元の農家に、森林となつて残る庭木がその名残です。(要町 75男)
- ◎田島さんの話、実感がこもって良かった。私自身体験があつたので特に感銘した。その他昔の話が出たのが良かった。(練馬区 69男)
- ◎大正13年頃から現在地に住居を建て、当時のまま住んでいる者です。震災後、本郷から移住して来た当時の祖父の長崎村に対する考えも判つたような気がしました。(長崎 69男)
- ◎大変有意義でした。特に、牧場にかかわる話には引きつけられました。(目白 59女)
- ◎初めて資料館に参りましたが、興味深いお話し、身近な生活に即したお話しで、これからは毎回出席したいと思っています。(要町 56女)
- ◎一方的な講義と違って、座談会形式の方が色々な方の発言があつて良い。(北大塚 52男)
- ◎面白い座談会でした。文献の無い話は重要で、時間の余裕がほしい。(西巣嶋 48男)
- ◎関係者が、現存する間に、貴重な話が聞けて良かった。(朝霞市 42女)
- ◎興味を持って聞くことができました。池五小に二十年代後半通いましたが、登校途中麦踏み姿を記憶しています。この豊島区で、これだけ資料を集めるのは大変だと思います。豊島の



熱のこもった発言が相次ぎました

- 農業を学ぶことの意味を理解し、広報にて知らせてもよいのでは。(池袋 41男)
- ◎農業の智慧を知るのには、やはり生の話が第一だと感じました。(新座市 41男)
- ◎いろいろな郷土の見聞を聴けたので、興味深かった。(板橋区 34男)

良く、「遺跡はどんな所にあるのですか？」という質問を受けることがあります。実は、これはちょっと難しい質問なのです。質問がもっと具体的で、例えば縄文時代の遺跡の場合とか、弥生時代の遺跡の場合といった時には、それなりの答えが準備できると思うのですが……。

この質問に答える前に、まず「考古学」が対象にしているのはどの範囲なのか、ということを考えてする必要があります。詳しいことは、いずれふれて見たいと思いますが、結論を先に言うと、全ての時代、全ての「物（＝遺物）」・「土地に刻まれた痕跡（＝遺跡）」として残されたものが、研究の対象になります。例えば、北海道では明治時代の開拓村の発掘がされました、都内でも戦前の炭焼窯の発掘が行われました。考古学は、縄文時代とか弥生・古墳時代といった大昔だけを相手にしていると思っている人が多いのですが、決してそうではないわけです。

これを前提に、もう一度「遺跡はどんな所にあるのですか？」という質問を考えると、それは時代によって、またその場所がどのように使われたかによって、さまざまな場合があります。単には答えられないということになるのです。そして、前回は、「縄文時代人の生活の場所はどこのような所にあるのか」ということについて、地形観察を通して少し紹介してみました。地形的に見ると、他の時代の人々も、それほ

ど縄文時代の人々と条件の違う場所に生活していたわけではありません。ただ、自然環境の変化や人々の手にした道具（＝技術）の発達によって、より新しい場所、今まで生活できなかった場所へと移り住んでいく様子を知ることができます。

生活の場以外では、弥生時代以後の「水田」を見ると、「水田」が自然のままでは水を得ることのできない台地の上にあることは、考えられませんが、やはり、川の近くで水を比較的簡単に引くことができ、また排水もできる、湿地になっっている場所を選ぶことでしょう。さきほどの「炭焼窯」の場合は、平安時代のものも見つかっていますが、いずれにしろ「炭焼窯」の発見されるのは、山の中の、周囲に「炭」の材料になる「くぬぎ」・「なら」などの木が自生している場所だと思えます。

このように、地形的な条件や土地が使われる目的によって場所の制約がある場合が、たいへん多いのですが、別の条件がでてくる時もあります。それは、その遺跡の残された「時代」の持つている条件に制約されている場合です。例えば、城郭を見ると、南北朝時代や戦国時代には、「山城」のように険しい山の頂上を中心に残されたものがあります。当時の戦乱の中でこそ、こうした山頂の城は大きな意味を持っていました。同じ城でも、戦国時代のおわり頃から

江戸時代になると江戸城のように平坦な場所に造られます。城の周囲に城下町ができてくることと関係があるのでしょう。

さて、豊島区内にも、こうした時代による制約を受けた遺跡の広がる場所があります。それは、駒込・巣鴨地区です。ここには、江戸時代にいくつかの大名屋敷が作られました。駒込・巣鴨地区は、現在東京大学になっている加賀藩前田家の屋敷がある本郷台地の根元の部分にあたり、この台地沿いに、江戸時代には大名屋敷街がこの地区まで延びてきたのでしょう。そして、この大名屋敷での需要を一つの前提に、周辺に多数の植木屋が現れます。大名や植木屋たちの生活の痕跡が、こうした条件の中で駒込・巣鴨地区には残されているということになるわけです。大名屋敷の発掘は、文京区や港・千代田区などでも行われており、豊島区でも今後注意していく必要があります。一方、植木屋が生活した跡の調査は、どこでもやっています。この分野の調査は、豊島区が積極的に進めていかなければならないものだと思います。

かたりべ

・ No. 11

・ 1988年1月31日

発行

・ 豊島区立郷土資料館

・ 豊島区西池袋2-37-4

・ 電話03-980-2351